

皇大神宮別宮

瀧原宮

参拝のしおり



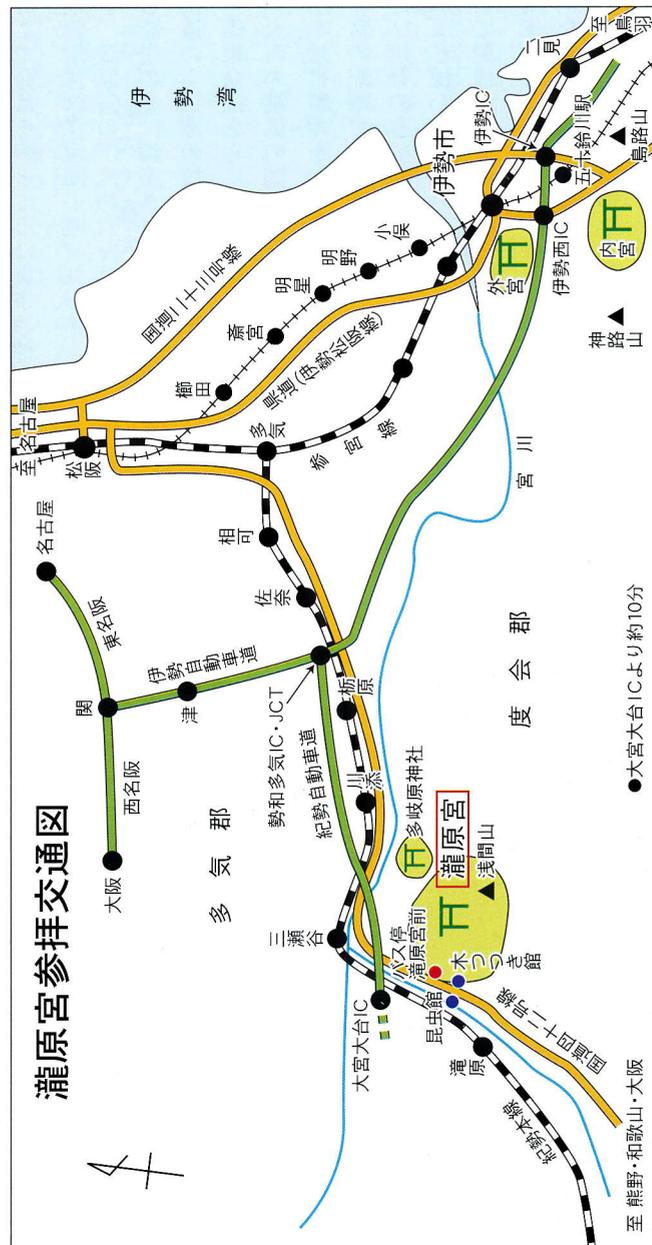
〒519-2703

三重県度会郡大紀町滝原872

☎ (0598) 86-2018

<http://www.isejingu.or.jp>

神 宮 司 廳



皇大神宮別宮 瀧原宮 瀧原竝宮

一、御祭神

瀧原宮、瀧原竝宮は、ともに皇大神宮（内宮）の別宮で、昔から「大神の遙宮」と言われています。御祭神はいずれも、天照坐皇大御神御魂で、両宮とも同じ所に御殿をならべて鎮座されています。

二、御鎮座地

三重県度会郡大紀町滝原

御鎮座の地は、宮川をさかのぼること約四十キロ、その支流大内山川が深い溪谷をなして流れる山間にあります。「瀧原」という名は、大小たくさんの滝があるところから出た名です。

そこで命はそのところに真奈胡神をまつる御瀬社をお定めになったのが、今の皇大神宮摂社、多岐原神社です。瀧原宮の下流約六キロ、大紀町三瀬川の宮川に臨む断崖の上に鎮座されています。近年までここに熊野街道の「三瀬の渡し」がありました。

倭姫命はさらに真奈胡神の案内でお進みになると、「大河の瀧原の国」という美しい土地があったので、この地に草木を刈り払って新宮を建てられたのが、瀧原宮の起源です。そののち皇大神宮の御神意によって、再び伊勢の方へ向われたので、瀧原に御滞留の期間はさほど長くはなかったと思われます。この御由緒によって御遷幸後もかわることなく、皇大神宮を奉斎して今日に至っています。

なお、両宮とも皇大神宮の御魂を奉斎しているのは、皇大神宮に皇大神を奉祀し、同別宮荒祭宮に皇大神の荒御魂を奉斎する姿の古い形と考えられます。

そのむかし、西国三十三所の巡礼を志した人々が、まず伊勢の大神宮にお詣りしてから、熊野の第一番札所を目ざして歩みを運んだ熊野街道は、現在、国道四十二号線となり、当宮の前を通っています。ここから荷坂峠を越して黒潮洗う紀伊の海岸に出て、南紀への旅を快適にしています。

当宮は、紀勢本線の滝原駅で下車し、およそ一・五キロ。また松阪駅から出発する南紀特急バスが約一時間での鳥居前を結びます。自家用車の場合大駐車場もあります。

三、御鎮座の由来

第十一代垂仁天皇の皇女倭姫命が、御杖代（御使い）として天照坐皇大神を奉戴して、宮川下流の磯宮をお発ちになり、上流の方に御鎮座の地を求めてお進みになると、砂をも流す急流の瀬があり困っておられたので、真奈胡神がお出迎えをしてお渡し申し上げた。

四、恒例のお祭

両別宮は、皇大神宮に準じて祭典が行われ、祈年、月次、神嘗、新嘗の諸祭には皇室から幣帛がたてまつられます。

一月	一日	午前八時	歳旦祭
一月	三日	午前八時	元始祭
二月	十一日	正午	建国記念祭
二月	二十日	午前八時	祈年祭
五月	十四日	午前十時	風日祈祭
六月	二十二日	午後十時	月次祭
六月	二十三日	午前二時	神嘗祭
八月	四日	午前十時	風日祈祭
十月	二十二日	午後十時	神嘗祭
十月	二十三日	午前二時	神嘗祭
十一月	二十六日	午前八時	新嘗祭
十二月	二十二日	午後十時	月次祭
十二月	二十三日	午前二時	月次祭

十二月二十三日 午前七時

天長祭

なお、崇敬者の申し出による祭典として、七月二十二日に夏の御祭、十月に日を選んで秋の御祭も行われています。両度の御祭は、近郷一帯からの参拝者で賑わい親しまれています。殊に夏の御祭は月次祭が明治以後新暦の六月二十二、三日に行われるようになってからも、農事の関係で旧米どおり七月二十二日に参拝するようになっていたもので、この日瀧原宮の大麻を受けて植田に挿して豊作のお守りとする信仰がありました。

五、域内の案内

瀧原宮の宮域四十四ヘクタールは、その地勢が皇大神宮のそれと極めてよく似ていて、あたかも皇大神宮の宮域の雛型(ひながた)のようです。後に山をひかえて南面し、



瀧原宮宿衛屋



瀧原宮参道入口

すぐ前には東から西に向って流れる枝川があり、それが南から北へ流れる大川に落ち合うT字型の地形です。宮域内の鬱蒼(うっそう)と茂る杉の大森林は、他に比類(ひるい)少なく、これこそ自然林の典型であると言われています。

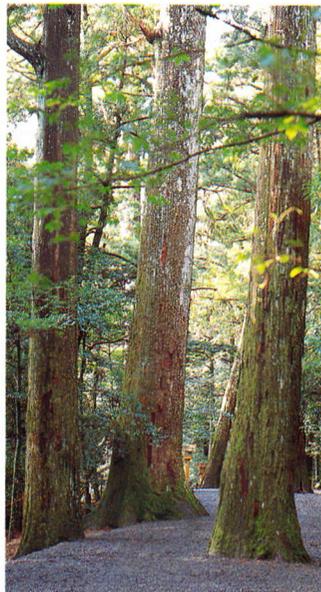
御本殿 両別宮とも構造は皇大神宮に準じ、神明造であって、御屋根の檼木(のき)は偶数で六本、東西両端には内削ぎ(水平切)の千木(ちぎ)が高く聳(そび)え、周囲には瑞垣(みづかき)、玉垣の二重の御垣があり、御垣にはそれぞれ瑞垣御門、玉垣御門があります。

所管社 東の一段高い地には、当宮の所管社、若宮神社(南面)と長由介神社(西面)があり、長由介神社には、川島神社が御同座鎮祭されていますが、三社とも創立年代は極めて古いと考えられます。

古殿地 東方の空地は、古殿地(こてんち)といって、二十年毎に東西交互に敷地を替えて、新しい御殿を造営する式年遷宮のための御敷地(みせち)です。

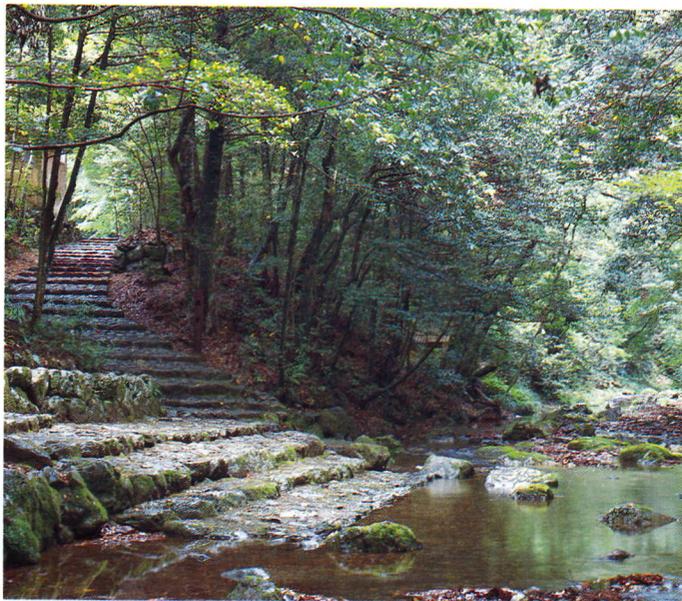


長由介神社



瀧原宮参道

なお、御本殿東側の建物は御船倉と呼ばれています。
宿衛屋 神職が常時勤務していて、御祈祷（御神楽・御饌）の取り次ぎ、大麻・守祓の授与、御朱印の押捺等をお取り扱いしております。
御手洗場 宿衛屋の南には、清らかな自然の谷水の流れる御手洗場があります。苔むした岩間を走る清水に手を洗い口を漱ぎ、せせらぎに耳を傾けると、おのずと心が鎮まりますすがすがしくなります。



御手洗場



若宮神社と御船倉